

## 第1回 次期ごみ処理施設整備専門委員会 議事要旨

日時：令和4年1月14日（金）14：00～16：10

場所：泉南清掃事務組合 管理棟 3階 会議室

### 【出席者】

・委員 4名

委員長	吉田 登	国立大学法人 和歌山大学教授
職務代理者	下村 泰彦	公立大学法人大阪 大阪府立大学教授
委員	水谷 聡	公立大学法人大阪 大阪市立大学准教授
委員	蓑田 哲生	大阪広域環境施設組合事務局長

・事務局 6名 稲垣事務局長 小川事務局次長 古木事業課長 栗阪事業課長代理  
八塚事業課主幹 村上総務課主任

### 1 開会、資料の確認

- ・稲垣事務局長よりあいさつ
- ・委員紹介・事務局紹介
- ・委員長及び職務代理者の選出

#### 【委員の互選による】

委員長：吉田 登 和歌山大学教授

#### 【委員長の指名による】

職務代理者：下村 泰彦 大阪府立大学教授

- ・委員会規則の確認

事務局より、委員会規則について説明し確認を行った。

- ・委員会の運営に関する申し合わせ事項

事務局より、委員会の運営に関する申し合わせ事項について説明後承諾を得た。

### 2 議事

- ・スケジュールについて

事務局より、スケジュール及び実施イメージについて説明を行った。

#### 【質疑等】

専門委員：仕様書等への質疑と回答は、全部を取りまとめて全ての参加予定業者に回答をお願いします。

専門委員：仕様書等への質問に対しては、参加予定事業者へ回答する前に、全委員へ周知後に回答するという認識で良いのか？

事務局：その通りにする予定です。なお質疑への回答は、HP上で行います。

・実施要領（案）について

事務局より、プロポーザル実施要領（案）について説明を行った。

【質疑等】

専門委員：この専門委員会はいつまでの実施となるのか？先ほどの参考資料の長期スケジュールにおいて、委員会が複数年度に渡って数回開催予定であるが、それは今の委員（4名）で実施するという考えなのか？

事務局：委員会は今年度も含めて令和6年度までの実施予定です。なお、委員会の委員数は増えていく予定です。

専門委員：リサイクルに関する業務が、はっきりしていないように思えるが、どのようにお考えか？リサイクル施設の位置づけがあいまいである為、施設全体の動線が気になっている。

事務局：リサイクル施設についての詳細は記載していない（書けない）のが現状ですが、検討はしているのでリサイクル施設の配置計画も含めて仕様書の記載内容を一部変更し、動線を検討する旨、付け加えたいと思います。

・仕様書（案）について

事務局より、仕様書（案）について説明を行った。

【質疑等】

専門委員：動線を含んだ施設配置計画についての具体案があれば、事務局に問いたい。

事務局：施設基本計画の中にはマテリアルリサイクルも全て含んだ計画となっていますが、今回（令和12年度まで）の事業については、管理棟と焼却施設の建設までということになっています。製品プラの法律が、来年度から施行される予定ですが、構成市の収集形態等が決まっておらず、計画が出来ないのが現状ですので、リサイクル施設については、動線も含め、大まかな位置や概要に留めて、詳細は次の計画で実施する予定になっています。

なお、仕様書については、最終的な敷地全体の施設配置計画を作成するよう、修正することにします。

専門委員：緑地等も含めた最終形状のイメージ図が必要ではないか？

専門委員：動線計画等、後付けで可能なのか？これまでの経験等踏まえ、各委員に問いたい。

専門委員：一番、気がかりなのが計量器の位置。例えば、年末の持ち込みが増える時期に車が並ぶことになる。その場合の対策も含めた計画・概略図等あった方が後付けになるとしても対応が可能となる。

専門委員：住民から嫌悪される施設である為、都市計画決定するうえで、施設のイメージを良くする努力が必要。そのうえで環境配慮型の都市施設としてのパース等でのイメージ戦略も重要。環境配慮はアセスのみならず、もう少し広

げた状態でイメージアップをお願いしたい。

専門委員：今回の次期ごみ処理計画は、条例アセスに係らない案件であるが、地元への説明責任を果たすためにも、しっかりと生活環境影響調査（ミニアセス）を実施すべきである。また、この案件には、都市計画が関係し、扱いが複雑になる為、全体配置のイメージの検討も重要と考える。

専門委員：生活環境影響調査の結果に基づき、生活環境に配慮したきめ細かな対策を検討し、この施設計画の妥当性が示せるように、資料を作成すべきと考える。

専門委員：マテリアルのプラスチックを今後どのように処理していくのか、わからない状況の中で、焼却するごみ質について、見通しを立てるのが難しい。その結果、業者提案に対する選定の判断基準が困難になる。

専門委員：次回の審査基準について、不確定要素も踏まえ、検討する必要がある。なお、これらの意見について、仕様書に記載の検討をお願いする。

専門委員：来年度以降に続いていく専門委員会の中で、内容をどこまで詰めていくのか？専門委員会と事務局が求める水準等、どのようなイメージを持っているのか？そのことも踏まえ、事務局からの資料提供が重要になると考える。

専門委員：事務局から専門委員には、泉南清掃事務組合としての意見を明示的に情報提供するようにお願いする。

専門委員：PFIの導入可能性調査については、アンケートでの選択肢設定が重要になる。

事務局：実施要領及び仕様書は修正したものを第2回の委員会までにメール等にてお示しいたします。

・その他の資料について

事務局より、その他の資料について説明し確認を行った。

### 3 閉会